



1年生の校内技術演習風景

◆鹿屋看護専門学校は、看護師国家試験で全国平均を上回る高い合格率の実績があります。

年度	受験者	合格者	合格率	全国平均合格率
平成 18 年度	28 人	28 人	100.0%	90.6%
平成 19 年度	31 人	29 人	93.5%	90.3%

◆鹿屋看護専門学校では、母性看護学専任教員を募集しています。

- 募集人員：1人
- 免許経験等：5年以上の臨床経験・助産師免許、普通自動車免許・看護教員養成講習会修了者、又は教育に関する科目を4単位取得（見込）している大学卒業（見込）者
- 業務内容：母性看護学講義・実習指導、その他専任教員に準じること

※詳しくは、お問い合わせください。



【経歴】  
京都大学医学部卒業後  
民間医療機関等勤務～  
国立療養所星塚敬愛園園長を経て  
現在、桜ヶ丘病院に勤務

鹿屋市立鹿屋看護専門学校長 **今泉 正臣** さん

平成20年3年課程の看護師養成所として新たに始動した「看専」の初代校長に就任された今泉正臣さん。今泉さんは、大阪出身で、阪神タイガースの大ファン。両親共に医師でしたが、小学生の時父親を亡くしたことで医師を志し、大学医学部に進学。そこでさまざまな社会活動を通して人間の生き方の大切さを感じたそうです。平成元年から鹿屋で暮らし、現在は桜ヶ丘病院勤務。モットーは誠実。

そんな今泉正臣校長に3年課程の看護師養成所として新たに始動した「看専」での抱負などを話していただきました。

**看** 護は対象者である人間を統合体として捉え、あらゆる発達段階や健康の段階にある人々に対し、その人らしい生活過程を整え自立できるように援助することです。そのためには看護師として必要な知識・技術・態度を修得し、科学的思考力、判断力、倫理観を身につけ安心で安全な看護を実践できる能力を養う必要があります。

また、看護は人の命にかかわる職業であり、生命の尊厳を基盤とした豊かな感性と創造力が求められています。そして日々発展していく医療の中では、保健・医療・福祉チームの中で自立した専門職者として他職種者との調整能力も期待されています。このような社会の要請にこたえるべく、地域社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

**本** 校は学生が看護を探究する姿勢と向上心を持ち、主体的に学び続けることを動機づけ、看護師としての誇りと使命感を持てるよう支援します。

基礎学力の向上、定着に向けては、学生の主体的な学習意欲を引き出すための関わりや、積み重ね学習である小テストを実施します。また、外部講師との緊密な連携を図り、教育課程の充実に努め、学力に応じた個別指導を徹底しています。臨地実習では座学での学びを統合できるように実習指導者との連携による指導を行っています。そのためには基本動作の反復練習による修学と場に応じた看護技術の選択につながる技術演習の充実を図っています。